

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度第2回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会
開 催 年 月 日	平成26年10月15日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	14時00分 から 16時00分まで
開 催 場 所	弘前城本丸発掘現場
議 長 等 の 氏 名	関根達人(弘前大学人文学部教授)
出 席 者	金森安孝、上條信彦、柴正敏、福井敏隆
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	(公園緑地課) 課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、課長補佐・小嶋修造、主幹・石川竜明、主査・横山幸男、主事・今野沙貴子(記録) (文化財課) 埋蔵文化財係長・岩井浩介
会 議 の 議 題	弘前城跡本丸石垣発掘調査について (1) 天守台下に入り込む盛土について (2) 明治～大正(近代)の石垣修理範囲の再確認 (3) 盛土の細分について (4) 本丸井戸跡 井戸枠内の状況
会 議 結 果	(1) 天守台下に入り込む盛土には、慶長の築城期より新しい印象を受ける。文化の天守台石垣修築時の仕事か、近代の石垣修理時の仕事かについては、天守曳屋後の調査で明らかにするべき。 (2) 天守台から北に40m付近までは、近代に大規模な石垣修理工事が行われている。 (3) 元禄期に築かれたまま今に残るとされていた調査区北側石垣の背面盛土(黒色土)から、元禄期以降の遺物が出土している。文献の記録に残っていない修理があったことを示唆する成果で、さらに慎重な調査を経てから結論を出すこと。 (4) 平成27年に井戸枠とその下にある蓋を移動し、下部の状況を調査することとし、その際に井戸枠の欠片があれば、石質の調査も実施すること。
会 議 資 料 の 名 称	1. 平成26年度第2回弘前城跡本丸発掘調査委員会(案件要旨) 2. 平成26年度弘前城本丸発掘調査区平面図(10月)・石垣現況写真(構築時期推定図)
会 議 内 容 (発 言 者 、	(1) 天守台下に入り込む盛土について (事務局) 天守台下に入り込む盛土の確認をするため、天守台沿いの掘削区を拡張した。その結果、天守下台に橙色を基調

発言内容、
審議経過、
結論等)

とする粘土層が続く状況を確認した。調査区北側に続く盛土③（慶長の築城時の盛土と想定）と比べて若干混入物が多いが、一連のものと捉えている。また、天守台根石と盛土層の間には、部分的に礫層が入る状況を再確認した。

(委員会) 天守台の下に入り込む盛土は、調査区西側に普遍的に見られる盛土③と比べて黒色土塊の混入が多く、盛土③と一連で行われた仕事ではないように感じる。築城期より新しい時代のものという印象を受ける。文化の天守台石垣修築時の仕事か、あるいは近代の石垣修理時の仕事であるのかについては、来年度の天守曳屋後の調査で明らかにするべき課題である。

(2) 明治～大正（近代）の石垣修理範囲の再確認

(事務局) 近代の石垣修理の痕跡と思われる白色粘土が、天守台から北へ約 19mの地点にまで広がった。この範囲は、石垣の立面から推定した近代の石垣崩壊範囲とほぼ一致する。

また、天守から北に 30mの地点で盛土②（黒色土）を深掘りしたところ、検出面より深さ 2 mほどの地点でガラスが出土した。その時点で、この黒色土は近代の修理に伴うものと判断し、呼称を「盛土②新」と改めた。盛土②新は、天守から北に 40m付近まで分布している。

(委員会) 天守台から北に 40m、つまり発掘調査区の南側半分 に分布する盛土は、近代のものという判断で良いと思う。近代の修理は、実際の石垣の崩壊範囲よりも広めに行われたのであろう。

(3) 盛土の細分について

(事務局) 調査区北側において、元禄期に築造されたままの状態を保っていると思われていた石垣の背面盛土（黒色土）から、元禄期以降の遺物の出土を確認した。この黒色土を「盛土②中」と名付けた。盛土②中から出土する遺物の時期は、今のところ近世の範疇に収まっている。

もともと調査区北端に、版築の痕跡を残す黒色土の堆積が確認されていたが、この土を「盛土②古」と名付けた。盛土②古は、盛土②中より古い。盛土②古が、元禄の石垣築造に伴う盛土なのではないか。

(委員会) 盛土②中から元禄期以降の遺物が出土することは、文献の記録に残っていない石垣修理があったことを示唆する。これは大きな問題であるので、遺物の取り上げをもっと

	<p>丁寧に、慎重に行ってから結論を出すべきだ。</p> <p>(4) 本丸井戸跡 井戸枠内の状況 (事務局) 石製井戸枠下において、コンクリート製の蓋を確認した。平成 27 年に井戸枠と蓋を移動し、下部の状況を調査する予定である。 (委員会) 井戸枠は近世のものと言われているが、近代以降の所産である可能性はないのか。いずれにせよ、この井戸枠は立派なものであり、製作には大きな労力がかかっているものと思われる。 井戸枠に使われている石材は、どこで産出されたものなのか。今後掘削を進める過程で、井戸枠の欠片が出てきた場合には、石質を分析すること。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開、非公開…公開 ・傍聴者数… 4 名 (青森テレビ・青森放送・陸奥新報)